

新しい図書館づくり
へ向けて

軽井沢町立図書館

館長 塩川 治子

今年4月に館長に就任して、半年が経ちました。平成13年から平成17年の4年間、館長を務めさせていただいた経験を生かし、新しい図書館づくりを進めております。

中軽井沢駅の地域交流併設の施設として、町では数年前より新図書館建設事業が進んでおりました。現在、平成25年4月開館予定の新しい図書館の準備に入っており、教育委員会はじめ、職員と共に、皆様に喜んでもらえる図書館に向けて、尽力しております。

最初に新しい図書館の基本方針をお知らせします。従来の図書館が重点を置いていた学習、修養の場から現代生活にあった「生活」「交流」「国際」を基本の柱として、新しい図書館の理念を構築したいと思います。現在の離山の図書館とのすみ分けをする上で中軽井沢の図書館の基本方針を挙げておきます。

- 一、誰もが気軽に利用できる図書館
- 二、子どもが読書、学習に親しめる図書館

三、地域の情報拠点になる図書館

四、地域と連携していく図書館

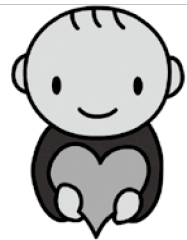
人々の繋がりが希薄になった現代社会にあって、人々と地域を繋ぐ拠点は重要になっていきます。特に軽井沢は町民の他に移住された方、別荘生活者など、多種の人々が混在する特殊な町を形成しています。それらの人々を繋ぐ「集い」と出会いを楽しむ交流の拠点として、図書館の機能が十分に働くよう場の提供を心がけます。

今後も新しい図書館づくりに向けての、お知らせと抱負などを、お伝えしていきたいと思っております。

新しい本が入りました!

- 東日本大震災の教訓 村井俊治 著
 - 「朝10分」で仕事は片付ける 野地秩嘉 著
 - からだと心の対話術 近藤良平 著
 - おじいちゃんの手 フロイド・クーパー絵
マーガレット・H・メイソン文
- ※この他にも新着図書・雑誌が多数あります。町のホームページで蔵書検索もできますので、利用してください。また、グループで本を借りることもできます。
- 【問い合わせ】 町立図書館 ☎42-3187

こころのラボレーション



スクールサポーター
(臨床心理士)
小林 真理

新聞やテレビなど、多くのマスメディアから「発達障害」ということが耳に入るようになってから10年近くがたちます。そもそも発達障害とは何なのか、一見ただけではわからないからこそ理解されにくい発達障害について、日常における身近なケースや素朴な質問を通して、理解を深めていただくきっかけとなれば、と思います。

- ① 発達障害を理解していただく大きなポイントは5つです。
- ② 原因はまだまだ不明な点が多いのですが、脳の一部分がうまく働いてくれない「脳の機能障害」である、ということ。
- ③ 本人なりに一生懸命やっているのですが、「どうしたらいいかわからない」「自分でもコントロールがきかない」といった「困り感」が、日常生活、コミュニケーションや対人関係、学習といったことに大きく影響してしまいがちです。そのためにも

敗感や挫折感を体験してしまうことが多くながちで、自信をつけることが他の人たちよりも大変だということ。

③ 得意なことや興味のあることには博士なみの知識をもっていたり、ものすごい集中力を発揮することもありますが、日常生活の些細なことでもつまずいてしまうこともあるなど、発達障害の「遅れ」や「ゆがみ」が特徴であること。

④ 特効薬的な治療法は確立されていないため、日常の中で「できるようにする」ためのスキル(ちから)をつけるための工夫や支援を重ねていくことが大切であること。

⑤ 早期発見(小さいころにその特徴を見つけること)・早期対応(早いうちからの積み重ね)が大切である、ということがあげられます。

私たちは誰でも、大なり小なり、発達障害の要素は持つて生まれていきます。そのため、チェックリストのようなものをやること、「誰がやっても当てはまる」ということがありません。ただその要素が大きく、日常生活の中で生活のしにくさが著しい場合が「発達障害」というイメージで理解していただくことが、大雑

把ではあります。理解の第一歩かもしれない。

現在では1クラスに1〜2人は発達障害のお子さんがいる、と文部科学省からも発表があるくらいです。実は身近な発達障害。正しい理解と知識をもつて一緒に過ごしていきたいものですね。

今月の
人権ポスター

やさしさと思いやりで
大切な命を守る人権教育



町内在住の佐藤真帆さんが昨年(小5当時)描いてくれたポスターです。差別や偏見が仲間はずれを生んでしまします。人権が尊重される社会とは、「仲間はずれのない世界」です。

【問い合わせ】

教育委員会 生涯学習係
☎45-8695